飯能市立博物館
Hanno Municipal Museum

南が原市場になった訳

学芸職員 波田 尚大

いわゆる「原市場地区」は現在の住居表示で言うと、9 つの大字、原市場・下赤工・上赤工・赤沢・唐竹・中藤下郷・中藤中郷・中藤上郷・南に分かれています。このうちの南は原市場村ではなく、吾野村でした。

南が吾野村だった名残が「郵便番号」に隠されています。飯能市立博物館のある飯能市大字飯能は〒357-0063、飯能市大字原市場は〒357-0123、飯能市大字南は〒357-0214 です。『配達局別郵便番号総覧』によると、357 は飯能市を示し、続く 00・01・02 という番号は、それぞれ飯能郵便局・原市場郵便局・吾野郵便局が集配局だったことを示しています。

飯能市は昭和 29(1954)年 1 月 1 日に誕生し、令和 6(2024)年 1 月 1 日で市政施行 70 周年を迎えます。飯能市誕生の 2 年後の昭和 31(1956)年 9 月 30 日に東吾野村・吾野村・原市場村が飯能市に編入する形で合併しました。

合併の三か月前の、昭和 31(1956)年 6 月 27 日の文化新聞の記事によると、当時、吾野村の 8 割は東吾野村との合併を望んでいましたが、南の内、中沢は原市場と共に飯能に合併することを望んでいました。9 月 8 日の記事では、中沢で区民集会が開催され、吾野村が名栗村との合併を目標とする発表したことに全戸で反対し、吾野村への分離の申請、飯能市への合併申し入れを原市場村村長と行うことが記載されています。

中沢にあった南小学校を卒業した生徒の内、ほぼ半数は吾野中学校ではなく原市場中学校へ進学していたことが昭和 23-25(1948-1950)年度の学齢簿に記されています。南小学校から原市場中学校までの距離は約 5km、吾野中学校までの距離は約 8km で、原市場村との合併を強く希望する理由の一つにはこうした背景もあり、合併が決まった後も、中沢の 3 名の代表が飯能市役所を訪れ、中沢を吾野地区ではなく、原市場地区とするようにとの希望を伝えています。

合併後、南の住民は原市場地区にすぐに馴染むことができたのでしょうか。当時の『文化新聞』の記事を見ると、1 年の間に様々な交流の機会が設けられていたことがわかります。原市場地区に編入となった記念の懇親会の開催、原市場の農協への加入、原市場地区として戦没者慰霊祭へ参加するなど、互いに歩み寄る姿勢が読み取れます。このように、中沢を中心とした大字南は、原市場地区になりました。

【引用元】
「コラム 3 吾野村南が原市場地区に編入した経緯 南が原市場になった訳」
飯能市立博物館特別展図録『原市場村秘史―受け継がれる記録と記憶―』20 頁より

合併直前の原市場村の地図